2026 年度版 あいち観光戦略に基づく観光振興施策の実施状況
（2025 年度年次報告書）の概要

愛知県観光振興基本条例第９条第６項の規定に基づき、「あいち観光戦略（2024-2026）」で定めた観光振興に関する施策の実施状況について、県議会に御報告するとともに、公表を行う。

第１　数値目標の達成状況

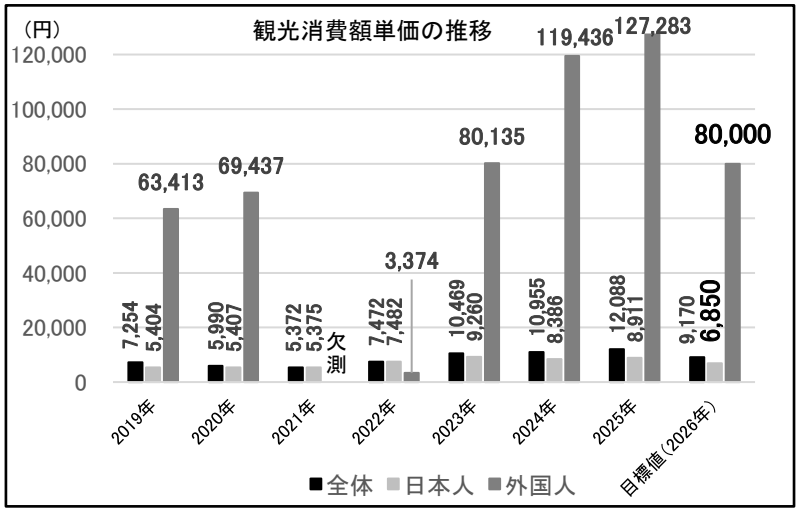
2025 年の本県の観光は、観光消費額単価と観光消費額がともに前年より増加し、前年に引き続き 2026 年の目標値を上回った。

一方で、観光入込客数は、前年を上回ったものの、コロナ禍前の 2019 年の水準には届かなかった。

（1） 観光消費額単価（本冊 4 頁）

2025 年の観光消費額単価は、日本人が 8,911 円と前年より増加し、目標値を上回る水準を維持している。

外国人の観光消費額単価は過去最高の 127,283 円を記録し、前年に引き続き目標値を大きく超えた。

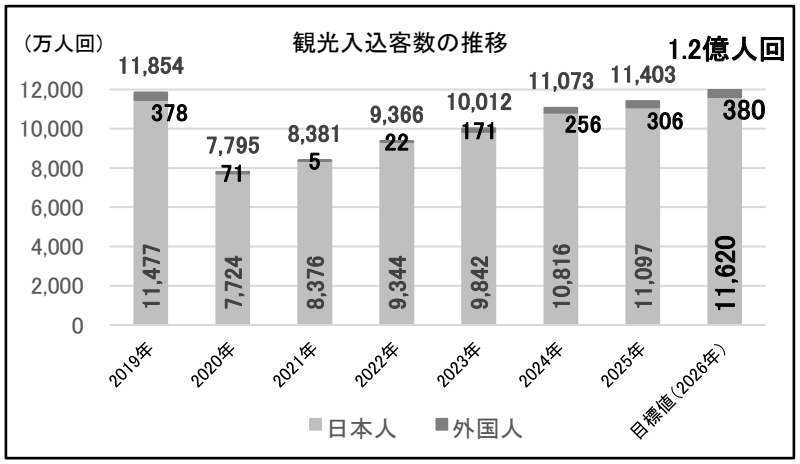


（2）観光入込客数（本冊 4 頁）

2025 年の観光入込客数は 1 億 1,403 万人回であった。

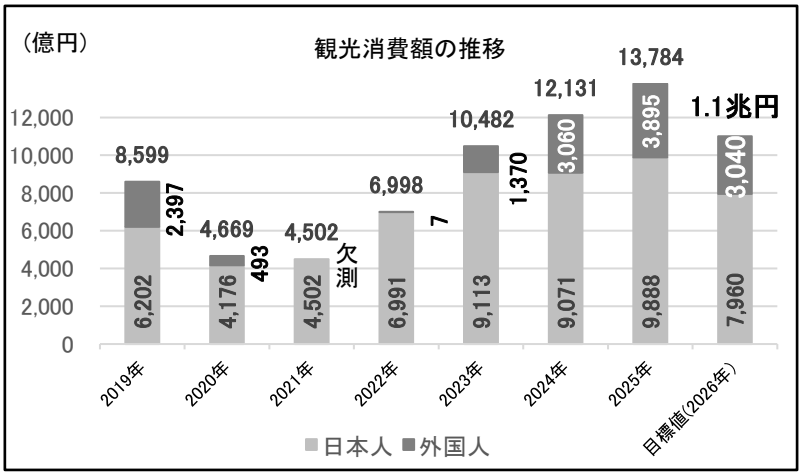
内訳は、日本人は 1 億 1,097 万人回、外国人は 306 万人回であり、ともに前年を上回った。

なお、2019 年と比較すると、日本人は 97%、外国人は 81%にとどまった。



（3）観光消費額（本冊 5 頁）

2025 年の観光消費額は 1 兆 3,784 億円で、過去最高を記録し、前年に引き続き目標値を上回った。



第 2　2025 年度の観光振興施策の実施状況（抜粋）

「あいち観光戦略 2024-2026」の目指すべき姿「『さすが』と言いたくなる『観光県・あいち』」の実現に向け、「地域資源の観光コンテンツ化」「PR・プロモーション」「受入環境の整備」「観光地経営体制の強化」「MICE の誘致・開催に向けた取組強化」の５つの展開分野で施策を実施した。

展開分野Ⅰ「地域資源の観光コンテンツ化」

「発酵食文化」の振興及び国内外への魅力発信を通じて、世界から多くの人を呼び込むため、2024 年に設立した「愛知『発酵食文化』振興協議会」の取組の一環として、蔵元やガイドを対象とした育成プログラムを実施した。

また、「あいちの歴史観光推進協議会」において武将等にゆかりがある庭園「サムライガーデン」を活用したフォトコンテストを初めて開催した。さらに、「サムライガーデン」を観光誘客に活用するための計画を策定し、国土交通省が設置する「ガーデンツーリズム登録制度」へ申請し、国による審査会を経て、2026 年 3 月、本計画の登録が決定した。

展開分野Ⅱ「PR・プロモーション」

大河ドラマ「豊臣兄弟！」を活用した誘客に向け、初回放送にあわせてパブリックビューイングを名古屋市と連携して開催したほか、JR 名古屋駅コンコースにおけるインフォメーションセンターの設置や、周遊ドライブマップの作成、滋賀県・奈良県と連携したスタンプラリーを実施した。

また、愛知・名古屋で開催するアジア・アジアパラ競技大会を活用したインバウンド誘客の促進に向け、国内ランドオペレーターと県内観光事業者との商談会を開催するとともに、中国・香港・韓国の旅行会社と県内観光事業者とのオンライン商談会を実施した。

展開分野Ⅲ「受入環境の整備」

海外富裕層旅行者等に宿泊場所として選ばれるよう、さらなる高級ホテルの立地促進に向け、名古屋市と連携し、愛知県高級ホテル立地促進事業費補助金制度の補助事業認定申請の受付を再開するとともに、開業済みの事業認定ホテルに対し、補助金を交付した。

また、市町村による観光施設の設置・改修に対する補助事業を実施し、受入体制の整備支援を行った。

展開分野Ⅳ「観光地経営体制の強化」

市町村・地域観光協会に対し、観光動態データ及び評価情報等の閲覧環境を提供するとともに、セミナーの開催等を通じて、観光コンテンツ造成やＰＲ・プロモーション能力の強化に向けた支援を行った。

また、観光需要の平準化に向け、愛知県観光協会が発行する、平日限定で県内 26 の美術館等に入館できるパスポートの認知拡大に向け広告支援を行った。

展開分野Ⅴ「MICE の誘致・開催に向けた取組強化」

本県初開催となる世界最大級の旅の祭典「ツーリズム EXPO ジャパン 2025 愛知・中部北陸」の成功に向けて、開催地連絡協議会の活動を通じ主催者を支援するとともに、地域を挙げた大規模出展等を通じて、当地域の魅力を発信し、観光誘客や広域の周遊観光を促進した。

また、2027 年の第 60 回アジア開発銀行年次総会の開催地が愛知・名古屋に決定したことを受け、名古屋市及び経済界と連携して支援実行委員会を設立した。

第 3　2026 年度の主要な観光振興施策（抜粋）

大河ドラマ「豊臣兄弟！」を活用した取組として、前年度に引き続き、滋賀県及び奈良県との連携による県域をまたぐ周遊企画を実施するとともに、大阪において歴史観光展を新たに開催し、広域からの観光誘客を促進。

また、アジア・アジアパラ競技大会を活用した誘客促進策として、大会開催期間中に、大会関係者、メディア及び観客を対象に県内各地の観光スポットを巡るシティツアーを実施。あわせて、大会を契機としたナイトタイム観光の推進に向け、オープントップバスツアーの運行、県庁本庁舎及び名古屋市役所本庁舎でのデジタルアート投影の実施のほか、ナイトタイム観光コンテンツを一体的に発信する特設サイトを構築。

さらに、アジア・アジアパラ競技大会を見据え、愛知の観光の魅力をＰＲするとともに、大会後の継続的な誘客につなげるため、首都圏の旅行事業者等と県内観光関連事業者による観光商談会・交流会を開催。

加えて、インバウンドの周遊促進に向け、半田市、西尾市、蒲郡市及び常滑市において、周遊に関する課題を設定し、その解決に資する企画提案をスタートアップ等から募集するとともに、提案内容を活用した実証事業を実施。